上之巻

日本武尊東門入

有馬の新湯

丙午人

へ13
3215

13
へ
3215

日本駄右衛門　有馬の藤蔵

人形筆五色絲藏

柳亭種彦作　歌川國貞画

全六冊合巻　上編

文政戊春新板

江戸より町川岸角　山本榮久堂鐫

文政十二年七月二日

中昔の謎語に駕籠に乗振袖と掛て人形筆と解意いろけを作者は享ゝ似さう寄さう似顔の繪冊子。三冊合しゝ本舞臺の勸善の作者物よき所見合て仙女香のひろめと書入りつの赤ゝ口絵が四五丁。その誂への朱ぐきとそぐろの紫墨の丸縁ゝ黒どんめきゝ綺香金擂上下着附の時代世話異本と二本按合して陀右衛門が物見の松ゝ白浪かゝる藤乃花桃ざくらとの本屋の禁句万苦の苦の世界と。せつゝぐき時のもぐり口も。持ま下るの長談義ゝつとゝもらゝく說ゝる。十二因縁冊數を前後ゝ分りて六道輪廻畢竟世界の大詰ゝ善ハ業惡ハ亡天ゝ眼の有馬郎邪正一如の二上りゝのぐりつめさぶ鳴呼身のえゝ乃。因果類應の勸化をあげられませう

文政九年丙戌春

柳亭種彦誌

太鼓持
花咲乱酒

みてそだひの手の縁

摂州
有馬北の坊
素麺屋れ
小に
湯女
阿藤

今小猿
壬生藏

今
堺屋八郎兵衛
水木辰之助
うちで打出屋の手代
貞吉

中間
多羅助
小車
越次郎

有馬富士
鹿垣堂之進
娘巻筆
賊首
二本
陀右衛門

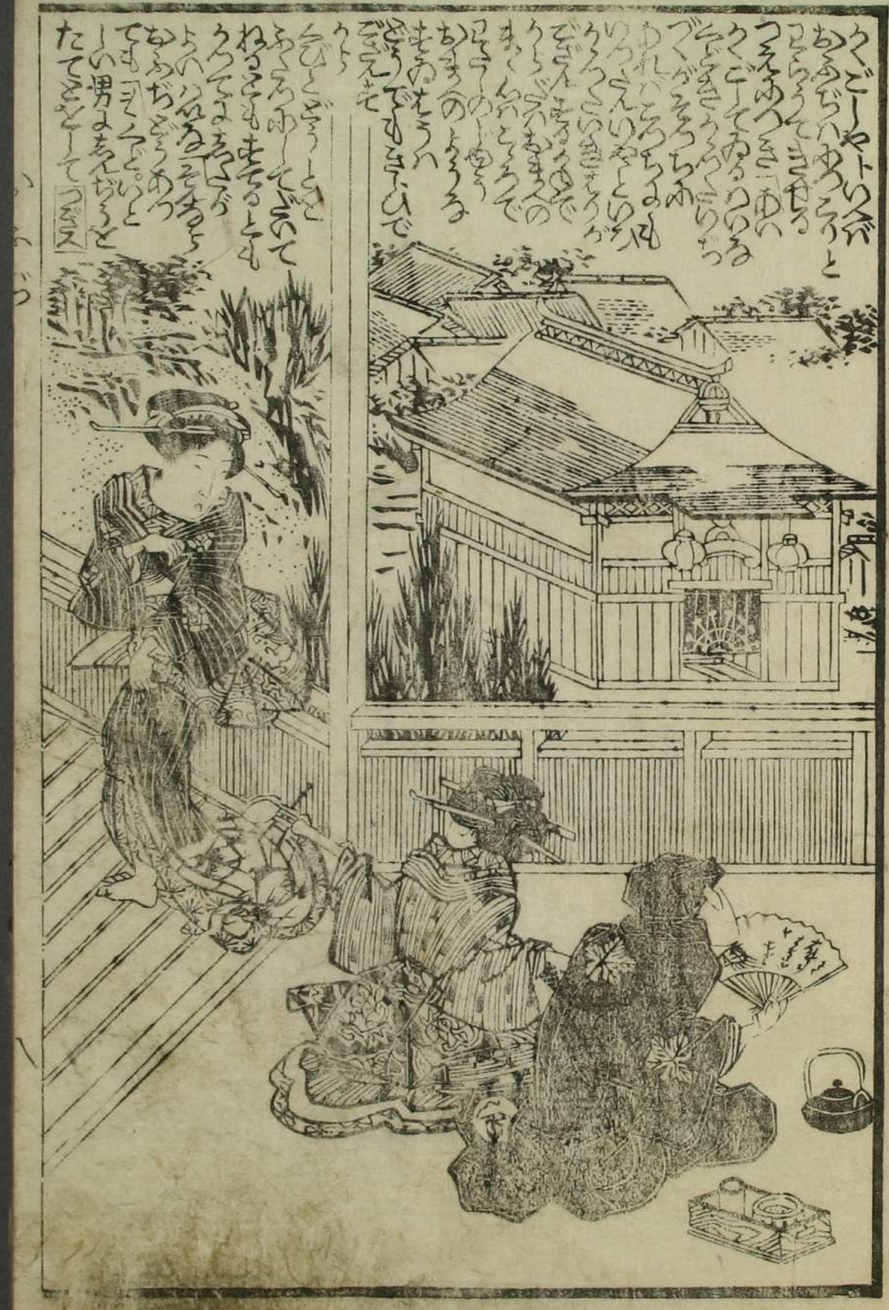
鼓ヶ瀧
打出屋
田子
兵衛
娘
於
妙

誰ゆめぞ
蝶ふろう花
手枕歌古調
音川瓜之助辰則の近臣
小車佐輪太郎

桔梗屋の
天神
花鳥
京都
嶋原
桔梗屋の
太夫
三五

山本屋
佐

酒



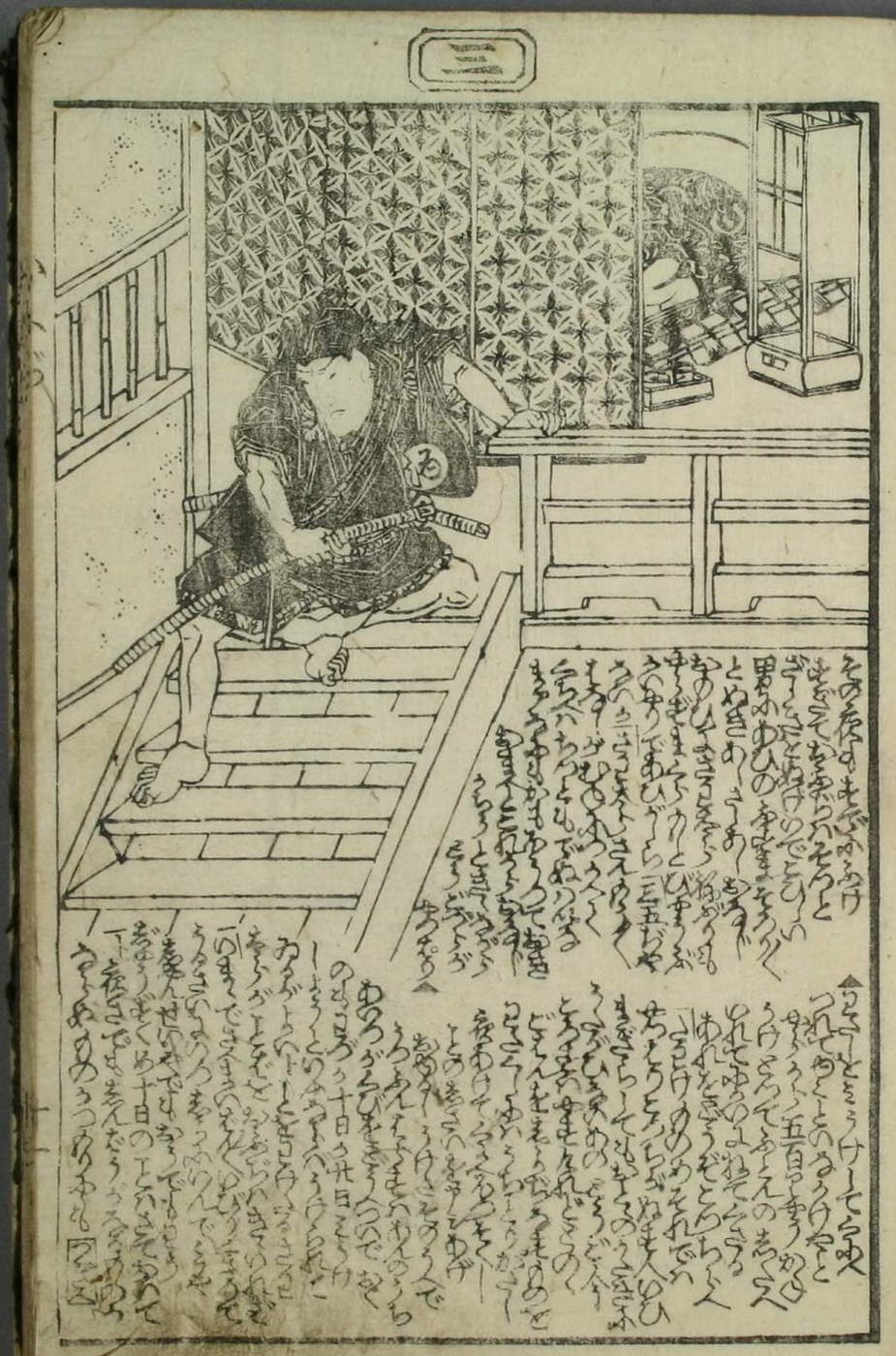
中之巻

女形彫龜

山本板

國貞画　種彦作

日本駄右衛門有馬之於藤人形
筆五色絲藏全六冊合卷繪冊子
柳亭種彦作五渡亭國貞画干時
文政九年丙戌新販江戸芳町川
岸親父橋角書肆山本榮久堂主
人平吉梓行筆福硯壽大吉利市



田子兵衛
卯木東庫
金五百両用ゐ
偽の東庫
五百両をもてゆかんを

拍子屋

右の下へ

つづき

右の上へ

文政九年戌春開板

御大名火消
定火消御役
火事御出役

御場所附並いろは組町火消附

両面摺

此度八洲名所出役の場所絵図ごく実義せ
並小町火消人足取組のいろは組合の事
てんかをくふくく所〜の世すぐく火事の場よりかふりさる
りものを拾さだあつめ品池奥の巻ひをのぶまつ
あ乃るゆを拾〜くあまねく世に紹〜むるれ工事也

新版

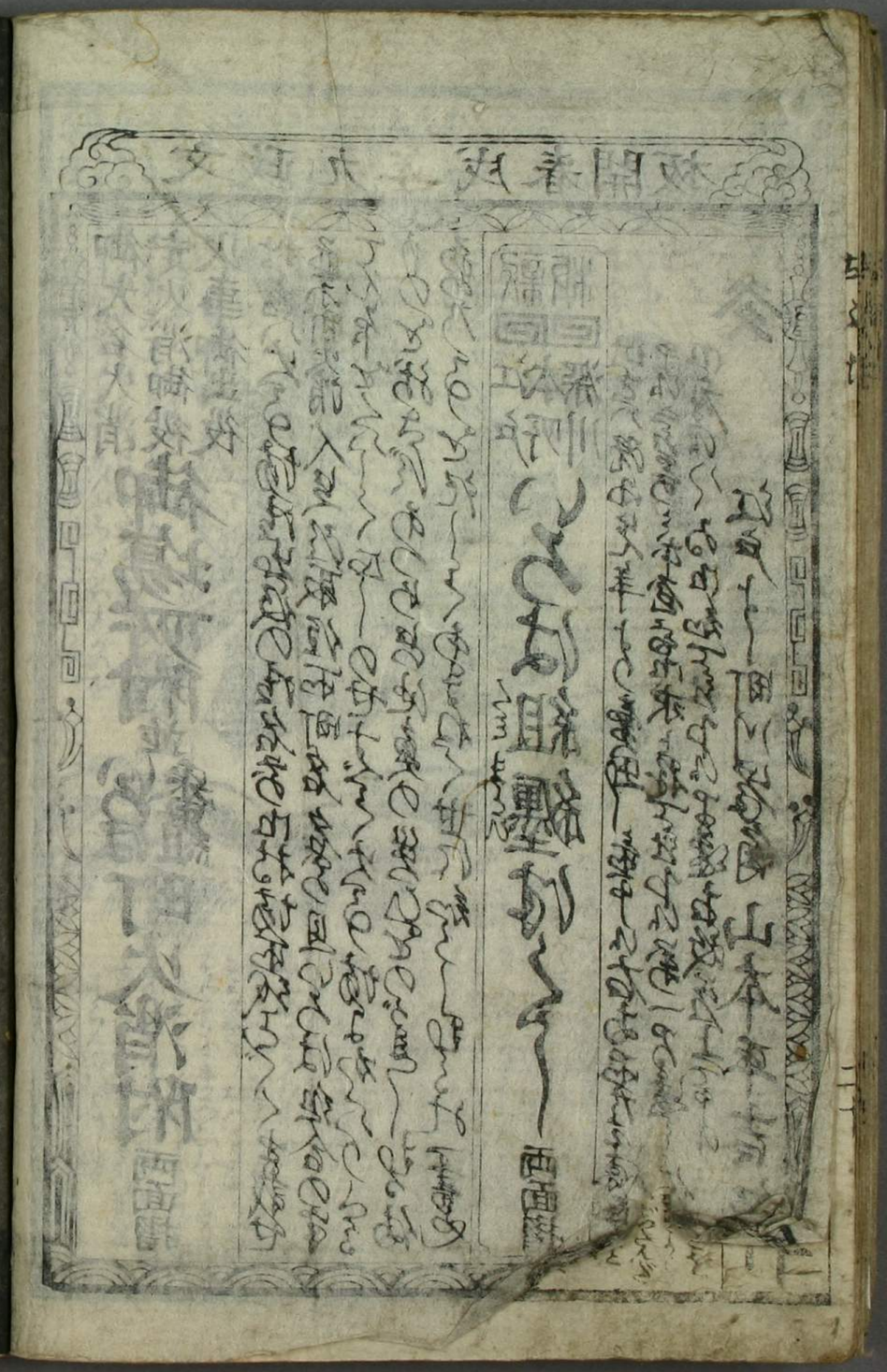
江戸本所深川

いろは組纏はくく

両面摺

此度八洲名所年より賣出し東中い右あ西北上東
ヤハ宮寺の三本倉高高求上寺社ハ社ハ第一乃遠
ヤ屋敷ハくあ西知て社ハ社ハ遠お敷屋上ハ

江戸より町川巻角　山本平吉板



五色絵

國貞画

下之巻

文政丙戌

春嘆堂

人形筆五色絲滅下編

種彦作　國貞画

丙戌春　山本壽櫻

種彦作國貞画

筆工
千形
道友

六冊